

IFPWロンドン総会(第21回)に参加して

(一社)日本医薬品卸売業連合会
会長 鈴木 賢



IFPW（国際医薬品卸連盟）総会が9月15日、16日の日程で英国・ロンドンにおいて開催されました。日本からは同伴者を含め50名の方々に参加していただきました。開催国の英国をはじめ世界25か国から約200名が参加し、熱心な討論が行われました。

今回の総会は、「ヘルスケアサービスの発展と将来展望 (Evolutions and Visions in Healthcare Delivery)」をテーマに、世界の製薬企業、医薬品卸企業、小売企業の幹部が、著しく変化する医薬品市場や、それに伴う経営戦略を紹介しました。

また、数多くのセッションにおいて、ジェネリック、バイオシミラーの市場拡大による、様々な変化にどのように対応するか議論が熱心に行われました。また、テクノロジーの進歩がヘルスケアに与える影響やサプライチェーンにおけるコラボレーションなどについて、高い関心を集めていました。

ビジネスプログラムにおいては、日本を代表して渡辺紳二郎氏（㈱アトル社長）に、本年4月に発生した熊本地震を踏まえ「自然災害時における医薬品卸の対応について」と題して、大変に流暢な英語での講演をいただきました。渡辺氏は、地震直後に対策本部を立ち上げ全社員の協力で復旧を果たしたこと、5年前の東日本大震災以来、医薬品卸の配送能力は広く認知されてきたこと、日本卸連が「自然災害発生時の医薬品供給における課題と対応の国際比較」というレポートを出した

ことなどを紹介していただきました。なお、このレポートは会場で参加者に配布をさせていただきました。

IFPW理事によるパネルディスカッションでは、中北馨介氏（中北薬品㈱社長）に参加いただき、日本のジェネリック医薬品やC型肝炎治療薬の現状、今後の医薬品市場の見通しなどについて紹介していただきました。中北氏は、今後の日本の医薬品市場は新薬の上市があるものの、ジェネリック医薬品の使用促進による影響があり、横ばいで推移することなどを報告しました。

総会に先立ち14日にはIFPW理事会が開催され、私が副会長に推挙され承認されました。このことで2020年総会は日本で開催される公算が高まったものと思われま。

なお、次回総会は2年後の2018年、米国ワシントンで開催されることになりましたので、是非多くの方々に参加をしていただけますようお願い申し上げます。

また、総会期間中に、中国医薬商業協会、韓国医薬品流通協会の代表者と会談を行い、アジア・パシフィック医薬品流通フォーラムについての検討を行い、次回のフォーラムは2017年の5月に上海において開催する方向で検討を進めることになりました。

最後に、多くの会員の皆様に参加していただき、今大会が成功裏に終わったことに対しまして心より感謝を申し上げます。